

[3] エチオピア

1. エチオピアの概要と開発課題

(1) 概要

1991年5月の社会主義政権崩壊後、1995年に連邦共和制の下に議院内閣制を採用した新体制が成立し、メレス首相率いる新政権が発足した。同政権は食料安全保障の確立と貧困削減を最大の課題として取り組んでいる。2005年の第3回総選挙後は、選挙結果を巡り野党支持者によるデモが発生し、各地方都市にも混乱が拡大するなど、一時緊張が高まったものの、その後は収束した。2010年5月の第4回総選挙は、与党が圧倒的勝利を収めた。

外交面ではメレス政権は善隣友好政策をとり、1993年に分離独立したエリトリアとも良好な関係を保っていたが、次第に両国間で対立が生じ、1998年5月、国境画定問題を巡って武力紛争が発生した。2000年12月には「和平合意」が成立したが、国境付近の一部地域を巡って対立し、いまだ関係正常化には至っていない。

経済面では、近年の十分な降雨により農業生産が順調であったこと、中国、インド、トルコ、サウジアラビアなどの新興援助国からの投資が増大したことなどにより、2003/2004年から7年間のGDP成長率は年平均約11%（エチオピア政府発表）を実現した。これはサブサハラの非石油生産国では最大の成長率である。政府はこの高い経済成長を長期間維持することで、2020年～23年頃までに中所得国入りを果たそうと努力している。また、エチオピアは青ナイルなど大型河川を擁し水力発電能力が高く、また、未開発ではあるが石油や稀少金属等の天然資源にも恵まれているとされ、潜在的な発展の可能性は高い。

農業部門は労働人口の約85%、GNIの約45%を占めており、食料安全保障の確立と貧困削減が、依然としてエチオピアの最大の課題である。政府は農業主導による産業開発（ADLI: Agricultural Development Led Industry）を開発課題に据えて、貧困削減への取組を強化しているが、慢性的な食料不足は解消されておらず、天候に恵まれた年でさえ食糧援助を必要とする者が多数存在する。また、多額の対外債務、極めて低い外貨準備高、コーヒー、油料種子などの一次産品への輸出依存など従来からの問題に加え、経済成長に伴うインフレによる都市生活者の困窮、都市環境・衛生問題など新たな社会問題も発生している。

なお、エチオピアは2004年4月に拡大HIPCイニシアティブの完了時点に到達し、国際的な枠組みの下で包括的な債務救済の適用を受け、我が国も2006年にエチオピアに対する債務を免除した。

(2) 「成長と構造改革計画（GTP: Growth and Transformation Plan）」

2002年、エチオピアは、HIPCとして認定され、新たな支援を受けるための条件として第一次貧困削減計画（SDPRP: Sustainable Development and Poverty Reduction Program）を作成した。次いで策定された、2005年から5年を対象としたPASDEP(Plan for Accelerated and Sustained Development to End Poverty)では、貧困削減のための加速的かつ持続的な開発計画を策定した。

2010年9月、貧困国からの脱却を目指し、新5ヶ年開発計画「成長と構造改革計画（GTP: Growth and Transformation Plan）」を打ち出した。GTPはこれまでの農業一辺倒の経済構造から「農業」及び「工業（産業）」の2本柱で国の経済を牽引していくことを目指している。この5年間は農業中心から工業（産業）中心の構造改革への基盤作り（準備期間）と位置付けている。主な目標は、GDPの倍増、MDGsの達成、主要穀物の40%増産、水力発電能力の4～5倍への拡大及び鉄道2,395kmの敷設等である。

GTPの主要政策は、次のとおりである。

- ・ 迅速、公正な経済成長の持続
- ・ 経済成長の主要供給源としての農業の役割確保
- ・ 工業（産業）が経済の重要な役割を担うためへの条件整備
- ・ インフラ開発の量と質の拡大・向上
- ・ 社会開発の量と質の拡大・向上
- ・ 能力とグッドガバナンスの向上
- ・ ジェンダー平等の推進と若者の能力向上・機会均等

表－1 主要経済指標等

指 標		2009年	1990年
人 口	(百万人)	82.8	48.3
出生時の平均余命	(年)	56	47
G N I	総 額 (百万ドル)	31,920.52	12,015.53
	一人あたり (ドル)	340	250
経済成長率	(%)	8.8	2.7
経常収支	(百万ドル)	-2,190.65	-293.77
失 業 率	(%)	20.5	—
対外債務残高	(百万ドル)	5,025.33	8,645.16
貿 易 額 ^(注1)	輸 出 (百万ドル)	3,433.05	596.62
	輸 入 (百万ドル)	9,045.98	1,270.92
	貿 易 収 支 (百万ドル)	-5,612.92	-674.30
政府予算規模 (歳入)	(百万ブル)	—	3,091.30
財政収支	(百万ブル)	—	-1,661.60
債務返済比率 (DSR)	(対GNI比, %)	0.4	2.0
財政収支	(対GDP比, %)	—	-6.6
債務	(対GNI比, %)	11.9	—
債務残高	(対輸出比, %)	89.4	—
教育への公的支出割合	(対GDP比, %)	—	—
保健医療への公的支出割合	(対GDP比, %)	2.0	—
軍事支出割合	(対GDP比, %)	1.3	6.5
援助受取総額	(支出純額百万ドル)	3,819.97	1,009.15
面 積	(1000km ²) ^(注2)	1,104	1,104
分 類	D A C	後発開発途上国 (LDC)	
	世界銀行等	i /低所得国	
貧困削減戦略文書 (PRSP) 策定状況		第2次PRSP策定済 (2006年9月 (最終版)) /HIPC	
その他の重要な開発計画等		—	

注) 1. 貿易額は、輸出入いずれもFOB価格。

2. 面積については“Surface Area”の値（湖沼等を含む）を示している。

表－2 我が国との関係

指 標		2010年	1990年
貿易額	対日輸出 (百万円)	3,951.49	7,258.63
	対日輸入 (百万円)	7,600.73	6,867.64
	対日収支 (百万円)	-3,649.23	390.99
我が国による直接投資	(百万ドル)	—	—
進出日本企業数		1	2
エチオピアに在留する日本人数	(人)	209	91
日本に在留するエチオピア人数	(人)	358	45

エチオピア

表－3 主要開発指数

開 発 指 標		最新年	1990年
極度の貧困の削減と飢饉の撲滅	所得が1日1ドル未満の人口割合 (%)	23.0(1990-2005 年)	—
	下位20%の人口の所得又は消費割合 (%)	—	—
	5歳未満児栄養失調割合 (%)	—	—
初等教育の完全普及の達成	成人 (15歳以上) 識字率 (%)	—	—
	初等教育就学率 (%)	82.7(2009年)	—
ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上	女子生徒の男子生徒に対する比率 (初等教育)	91.4(2009年)	65.3
	女性識字率の男性に対する比率 (15～24歳) (%)	38.5(2005年)	—
乳幼児死亡率の削減	乳児死亡率 (出生1000件あたり)	67.8(2010年)	110.5
	5歳未満児死亡率 (出生1000件あたり)	104(2009年)	210
妊産婦の健康改善	妊産婦死亡率 (出生10万件あたり)	470(2008年)	990
HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止	成人 (15～49歳) のエイズ感染率 (%)	—	—
	結核患者数 (10万人あたり)	359(2009年)	159
	マラリア患者数 (10万人あたり)	—	—
環境の持続可能性の確保	改善された水源を継続して利用できる人口 (%)	38(2008 年)	17
	改善された衛生設備を継続して利用できる人口 (%)	12(2008年)	4
開発のためのグローバルパートナーシップの推進	債務元利支払金総額割合 (財・サービスの輸出と海外純所得に占める%)	3.1(2009年)	39.0
人間開発指数 (HDI)		0.363(2011年)	—

2. エチオピアに対する我が国ODA概況

(1) ODAの概略

エチオピアに対する経済協力は、1967年に実施した当時の帝国中央衛生研究所への「技術協力支援」に遡る。1971年には初の技術協力を開始（「天然痘撲滅対策プロジェクト」、「JOCV派遣取極」）し、1972年には円借款を開始（「地下水開発プロジェクト」及び「空港ターミナル建設プロジェクト」）した。一方で、1974年の革命以降、1991年の社会主義崩壊まで支援は一時低調となったが、現政権移行後の支援は、無償資金協力を中心に積極的な支援を実施している。円借款は1972年以降実施されていない。

(2) 意義

エチオピアは、「アフリカの角」地域の中心に位置するサハラ以南で第2（約8,500万人）の人口大国でアフリカ連合（AU）や国連アフリカ経済委員会（UNECA）の本部が置かれるアフリカ地域における外交の一つの中心地である。また、ソマリア、スーダン、エリトリア等と国境を接しており、ナイル川流域及び東アフリカの安定と発展に係る戦略的要衝に位置している。他方、エチオピアは、干ばつ、飢餓、長年の内戦・紛争による難民・国内避難民の発生等の問題を抱えており、一人当たりGNIが280ドル（WDI2010）と世界で最も低い水準にとどまっている。現政権は、これまで民主化及び経済改革を進めつつ、貧困削減等の開発課題に取り組んできている。また、2010/11～2014/15年の5カ年開発計画（Growth and Transformation Plan：GTP）を策定して、「農業」を核としつつ2014/15年には「工業」にも重点を置いた経済構造にシフトさせ、2020～2023年までには中所得国入りするという大目標を掲げている。こうした取組をODAによって支援することは、ODA大綱の重点課題である「貧困削減」や「平和の構築」の観点からも意義が大きい。また、干ばつ等の自然災害や内戦・紛争による難民・国内避難民の発生といった人間の尊厳に対する直接的脅威への対策をODAにより支援することは「人間の安全保障」の観点からも重要である。

(3) 基本方針

我が国は、2008年6月に策定された国別援助計画に従い、中期的には「食料安全保障の確立」を主な目標として貧困削減を支援する。国別援助計画では農業・農村開発及び生活用水の管理を最重点分野、社会経済インフラ、教育、保健を重点分野としており、これらの分野への支援と、緊急的な食糧援助、中長期的な貧困農民支援を効率的・効果的に組み合わせて支援を進める。

また、2008年、メレス首相が提唱した開発戦略・産業開発（日本・アジアの経験に学ぶ）に基づき、産業開

発がエチオピア支援の最重点分野の一つとなった。2009 年には、学界の関与を得た政策対話及び日本の経験に基づく「カイゼン・プロジェクト」を開始したところ、これらの取組を通じて経済成長の維持に貢献していく。

(4) 重点分野

- (イ) 農業・農村開発：農業生産性の向上と市場を通じた食料アクセスの改善を目的に実施
- (ロ) 生活用水の管理：「地下水」分野での施設整備・能力開発等を実施
- (ハ) 社会経済インフラ：食料安全保障確立のための支援として、市場流通促進に寄与する道路、橋梁整備支援（既に高い知名度と評価を得ている）を継続。道路の維持管理体制整備に対する支援も実施
- (ニ) 教育：農村部へき地における教育へのアクセスの改善、地方教育行政の能力強化と住民参加による学校建設・運営を通じた教育の質改善を目的に実施
- (ホ) 保健：感染症に適切に対応できる行政的な枠組みを構築し、その能力を向上させることを重視。コミュニティに対する栄養改善指導など地域保健活動支援も検討。また、国連機関を通じた援助や草の根・人間の安全保障無償資金協力などを活用し、国家による保護が十分に行き渡らない人々を支援してきている。
- (ヘ) 産業開発：アジアでの経済発展の経験を踏まえ、産業開発に関するハイレベルな政策対話や、日本の経験に基づき、「皮・皮革製品」、「金属」、「農産物加工」、「繊維・衣類製品」、「薬品」の 5 分野に対して品質・生産性向上のための「カイゼン・プロジェクト」を実施している。

(5) 2010 年度実施分の特徴

無償資金協力については、基礎生活分野（給水）、インフラ分野（地すべり対策機材）及び食料安全保障（食糧援助）を中心に供与を決定した。技術協力については、基礎生活分野から市場経済化に資する人材育成まで幅広く研修事業、専門家派遣事業、JOCV 派遣事業等を行ったほか、技術協力プロジェクトとしてインフラ分野（地すべり対策支援）、農業（灌漑整備支援）、産業開発分野、教育分野、保健分野等に関するプロジェクトを実施した。

3. エチオピアにおける援助協調の現状と我が国の関与

エチオピアは OECD の援助調和化モデル国であり、また世界銀行が主催する SPA（Strategic Partnership with Africa）の財政支援パイロット国となっていることから、サハラ以南アフリカ諸国の中でも、援助協調が進んでいる国の一つである。

大使級ドナーグループで組織されている EPG(Ethiopia Partners Group)により、定期的に政策対話（政治、経済、安全保障など）が行われているほか、主要ドナー会合である DAG（Development Assistance Group）では 10 の分野別分科会が設けられ、任意参加による会合が定期的に持たれている。我が国は現地 ODA タスクフォースを通じて、水、保健・人口・栄養、教育、民間セクター開発・貿易、公共財政管理・マクロ経済、食料安全保障、ガバナンス及び運輸の分野に参加している。

2005 年の選挙後の混乱により、一部ドナーにより実施されていた直接財政支援が停止されたが、代替支援として PBS（Protection of Basic Service; 2006-2008）が実施されるなど（2009 年から PBS II に引き継がれている）、支援を継続している。DAG は引き続きガバナンスについてエチオピア政府と対話を継続すると共に、特定の開発課題を取り上げるハイレベルフォーラムを定期的に開催し、相互理解と援助効果向上を図っている。

エチオピア

表－4 我が国の年度別・援助形態別実績

(単位：億円)

年 度	円 借 款	無償資金協力	技 術 協 力
2006年	－	34.63	14.03 (13.61)
2007年	－	43.79	13.24 (12.98)
2008年	－	62.54 (16.19)	13.62
2009年	－	71.07 (20.66)	20.67 (19.76)
2010年	－	41.31 (16.36)	26.22
累 計	37.00	973.23 (53.21)	269.18

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。ただし、無償資金協力のうち、国際機関を通じた贈与（2008年度実績より、括弧内に全体の内数として記載）については、原則として交換公文ベースで集計し、交換公文のない案件に関しては案件承認日又は送金日を基準として集計している。草の根・人間の安全保障無償資金協力と日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。
3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。
4. 2006～2009年度の技術協力においては、日本全体の技術協力事業の実績であり、2006～2009年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2010年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。

表－5 我が国の対エチオピア経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦 年	政府貸付等	無償資金協力	技 術 協 力	合 計
2006年	－	45.15 (5.62)	12.70	57.85
2007年	－	24.15 (2.14)	11.89	36.03
2008年	－	32.88 (3.78)	14.24	47.12
2009年	－	80.79 (34.34)	16.98	97.76
2010年	－	65.88 (18.58)	28.01	93.89
累 計	-8.83	781.80 (64.46)	236.55	1,009.54

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 従来、国際機関を通じた贈与は「国際機関向け拠出・出資等」として本データブックの集計対象外としてきたが、2006年より拠出時に供与先の国が明確であるものについては各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上する事に改めた。()内はその実績(内数)。
2. 政府貸付等及び無償資金協力はこれまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(政府貸付等については、エチオピア側の返済金額を差し引いた金額)。
3. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁及び地方自治体による技術協力を含む。
4. 四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。
5. 政府貸付等の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。

表－6 諸外国の対エチオピア経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合 計
2005年	米国 247.13	イタリア 86.93	英国 136.15	スウェーデン 68.37	カナダ 64.93	34.17	1,186.78
2006年	米国 315.78	英国 164.61	イタリア 105.39	カナダ 62.48	日本 57.85	57.85	1,026.38
2007年	米国 371.73	英国 291.07	ドイツ 96.48	カナダ 90.52	イタリア 75.47	36.03	1,244.89
2008年	米国 811.37	英国 253.68	カナダ 152.55	オランダ 113.63	ドイツ 98.25	47.12	1,843.42
2009年	米国 726.04	英国 342.92	日本 97.76	スペイン 94.00	カナダ 87.18	97.76	1,816.56

出典) OECD/DAC

表－7 国際機関の対エチオピア経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	そ の 他	合 計
2005年	IDA 247.13	EU Institutions 163.47	AfDF 136.15	GFATM 77.91	UNICEF 24.09	65.26	714.01
2006年	IDA 353.87	EU Institutions 194.37	AfDF 154.76	GFATM 130.62	UNICEF 25.83	71.77	931.22
2007年	EU Institutions 364.76	IDA 323.95	AfDF 169.16	GFATM 161.68	GAVI 130.02	152.84	1,302.41
2008年	IDA 546.22	EU Institutions 447.14	AfDF 145.01	GFATM 144.33	UNICEF 45.85	124.80	1,453.35
2009年	IDA 1,037.53	AfDF 312.93	EU Institutions 202.47	IMF 164.94	GFATM 130.47	135.51	1,983.85

出典) OECD/DAC

注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表－8 我が国の年度別・形態別実績詳細

(単位：億円)

年度	円 借 款	無 償 資 金 協 力	技 術 協 力
2005年度までの累計	37.00億円 (過去実績詳細は外務省ホームページ参照) (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/jisseki.html)	719.88 億円 (過去実績詳細は外務省ホームページ参照) (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/jisseki.html)	183.27 億円 研修員受入 1,393 人 専門家派遣 286 人 調査団派遣 754 人 機材供与 2,542.79 百万円 協力隊派遣 401 人 その他ボランティア 4 人
2006年	な し	34.63億円 第三次幹線道路改修計画(国債2/4) (16.17) 南部諸民族州給水計画(2/2) (5.44) 小児感染症予防計画(UNICEF経由) (5.29) アフール州給水計画(詳細設計) (0.23) 食糧援助 (4.60) 草の根・人間の安全保障無償(34件) (2.90)	14.03億円 (13.61億円) 研修員受入 136人 (81人) 専門家派遣 39人 (39人) 調査団派遣 52人 (52人) 機材供与 61.23百万円 (61.23百万円) 留学生受入 41人 (協力隊派遣) (19人)
2007年	な し	43.79億円 第三次幹線道路改修計画(国債3/4) (16.29) アフール州給水計画(国債1/2) (3.16) 小児感染症予防計画(UNICEF経由) (1.25) ティグライ州地方給水計画(詳細設計) (0.26) オロミア州小学校建設計画 (10.41) 食糧援助 (5.30) 貧困農民支援 (4.50) 日本NGO連携無償(1件) (0.04) 草の根・人間の安全保障無償(27件) (2.58)	13.24億円 (12.98億円) 研修員受入 89人 (77人) 専門家派遣 58人 (54人) 調査団派遣 59人 (59人) 機材供与 51.91百万円 (51.91百万円) 留学生受入 35人 (協力隊派遣) (16人) (その他ボランティア) (1人)
2008年	な し	62.54億円 アフール州給水計画(2/2) (2.28) エチオピア国立博物館人類化石関連機材整備計画 (0.40) オロミア州給水計画 (0.28) ティグライ州地方給水計画 (2.07) ノン・プロジェクト無償資金協力 (10.00) 緊急給水計画 (8.00) 第三次幹線道路改修計画 (6.76) 地下水開発機材整備計画 (5.57) 食糧援助(WFP経由)(1件) (8.60) 日本NGO連携無償資金協力(1件) (0.11) 草の根・人間の安全保障無償(24件) (2.27) 国際機関を通じた贈与(4件) (16.19)	13.62億円 (13.34億円) 研修員受入 90人 (78人) 専門家派遣 26人 (26人) 調査団派遣 47人 (46人) 機材供与 76.60百万円 (76.60百万円) 留学生受入 32人 (協力隊派遣) (36人) (その他ボランティア) (2人)

エチオピア

年度	円 借 款	無 償 資 金 協 力	技 術 協 力
2009年	なし	71.07 億円 オロミア州給水計画 (2.13) ティグライ州地方給水計画 (1.04) ノン・プロジェクト無償資金協力 (6.00) 森林保全計画 (17.00) 食糧援助(WFP経由) (7.40) 食糧援助 (8.50) 貧困農民支援 (5.90) 草の根文化無償 (1 件) (0.10) 草の根・人間の安全保障無償 (25 件) (2.34) 国際機関を通じた贈与 (7 件) (20.66)	20.67億円 (19.76億円) 研修員受入 126人 (123人) 専門家派遣 81人 (80人) 調査団派遣 56人 (55人) 機材供与 94.57百万円 (94.57百万円) 留学生受入 1人 (協力隊派遣) (36人) (その他ボランティア) (9人)
2010年	なし	41.31 億円 アバイ渓谷ゴハチオンーデジェン幹線道路機 材整備計画 (9.60) 国道一号線アワシ橋梁架け替え計画(詳細 設計) (0.45) オロミア州給水計画(国債 2/3) (5.63) ティグライ州地方給水計画(国債 1/3) (2.02) 草の根文化無償 (1 件) (0.10) 食糧援助(1 件) (5.50) 草の根・人間の安全保障無償(17 件) (1.65) 国際機関を通じた贈与(2 件) (16.36)	26.22億円 研修員受入 166人 専門家派遣 124人 調査団派遣 145人 機材供与 82.89百万円 協力隊派遣 25人 その他ボランティア 4人
2010年 度まで の累計	37.00億円	973.23 億円	269.18億円 研修員受入 1,918人 専門家派遣 609人 調査団派遣 1,111人 機材供与 2,909.98百万円 協力隊派遣 533人 その他ボランティア 20人

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。ただし、無償資金協力のうち、国際機関を通じた贈与（2008年度実績より記載）については、原則として交換公文ベースで集計し、交換公文のない案件に関しては案件承認日又は送金日を基準として集計している。草の根・人間の安全保障無償資金協力和日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。
3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。
4. 「貧困農民支援」は、2005年度に「食糧増産援助」を改称したもの。
5. 「日本NGO連携無償」は、2007年度に「日本NGO支援無償」を改称したもの。
6. 2006～2009年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2006～2009年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2010年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。
7. 調査団派遣にはプロジェクトファインディング調査、評価調査、基礎調査研究、委託調査等の各種調査・研究を含む。
8. 四捨五入の関係上、累計が一致しないことがある。
9. 2008年度無償資金協力「ティグライ州地方給水計画」は案件として中止となっている。

表一9 実施済及び実施中の技術協力プロジェクト案件（終了年度が2006年度以降のもの）

案 件 名	協 力 期 間
ベレテ・グラ参加型森林管理計画プロジェクト（フェーズ1）	03.10～06. 9
住民参加型基礎教育改善プロジェクト	03.11～08. 3
農民支援体制強化計画プロジェクト	04. 7～09. 7
地下水開発・水供給訓練計画プロジェクト（フェーズ2）	05. 3～08. 3
灌漑農業改善計画プロジェクト	05. 9～08. 9
ベレテ・グラ参加型森林管理プロジェクト（フェーズ2）	06.10～10. 9
橋梁維持管理能力向上プロジェクト	07. 1～11. 1
南部諸民族州給水技術改善計画プロジェクト	08. 1～11.12
アムハラ州感染症対策強化プロジェクト	08. 1～13. 1
住民参加型初等教育改善プロジェクト	08. 9～12. 9
母子栄養改善プロジェクト	08. 9～13. 9
地下水開発・水供給訓練計画（フェーズ3）	09. 1～13.11
灌漑設計・施工能力向上プロジェクト	09. 6～12. 6
小規模農民のための優良種子振興プロジェクト	10. 2～13. 9
農民研究グループを通じた適正技術開発・普及プロジェクト	10. 3～15. 3
オロミア州地方政府マルチセクター計画・予算策定支援プロジェクト	10.12～13.11
理科教科教育改善プロジェクト	11. 3～14. 3
品質・生産性向上（カイゼン）普及能力開発プロジェクト	11.11～14.10

表－10 実施済及び実施中の開発計画調査型技術協力案件（開発調査案件を含む）（終了年度が2006年度以降のもの）

案 件 名	協 力 期 間
オロミア州初等教育アクセス向上計画調査	05. 4～07. 6
アムハラ州流域管理・生計改善計画調査	08. 1～11. 3
エチオピア国 品質／生産性向上計画調査	09.10～11. 5
南部諸民族州農産物流通改善計画調査	09.12～12.11
リフトバレー湖沼地域地下水開発調査計画プロジェクト	10. 1～11.12
アバイ渓谷地すべり対策調査プロジェクト	10. 3～12. 1

表－11 2010年度協力準備調査案件

案 件 名	協 力 期 間
アバイ渓谷地滑り対策プロジェクト準備調査	09. 3～10. 6
気候変動プログラム準備調査(電力、新・再生エネルギー分野)	09.12～10.12
アバイ渓谷ゴハチオンーデジェン幹線道路機材整備計画準備調査	09.12～10. 4
灌漑開発推進プログラム準備調査	10. 2～10. 7
国道一号线橋梁架け替え計画	10. 4～11. 1
アムハラ州中学校建設計画準備調査	10. 5～11. 4
小児保健・栄養拡大計画準備調査（その2）	10. 7～11.11
第四次幹線道路改修計画	10. 7～11. 4

表－12 2010年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

案 件 名
オロミア州南西ショア県ウォリソ郡中高併設校建設計画
オロミア州南西ショア県ギルマ・ウォルデギオルギス中学校建設計画
南部諸民族州南オモ県サラ橋梁建設計画
南部諸民族州カンバタ・タンバロ県ロマン・デガ・カディダ小学校拡張計画
アムハラ州タクサ郡急性水様性下痢症予防計画
南部諸民族州グラゲ県公衆衛生向上のための給水計画
オロミア州北ショア県ヤヤ・グレレ郡給水及び道路建設計画
オロミア州機能的識字プログラム拡充計画
オロミア州アルシ県ティジョ中等学校拡張計画
オロミア州西ワレガ県ボジ・チェコルサ高等学校拡張計画
アディスアベバ市ストリートチルドレン救済支援計画
南部諸民族州カフファ県コンダ小学校拡張計画
南部諸民族州ウォライタ県ゼボ小学校拡張計画
ティグライ州アディグラット町アガジ小学校拡張計画
ティグライ州アッピウォンバータ郡ディババ村キドステマリアム前期小学校建設計画
アムハラ州アヲベル郡レガ中学校建設計画
南部諸民族州アワサ・ズリア郡マキバサ・コルケ小学校拡張計画

図－1 当該国のプロジェクト所在図は696頁に記載。

プロジェクト所在図

エチオピア、エリトリア、ジブチ、ソマリア

